渋谷　雄 教授

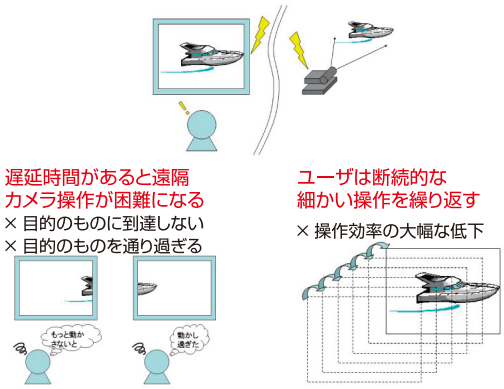
お問合せ先
corc@kit.ac.jp
産学公連携推進センター

■キーワード
遠隔カメラ操作　遅延時間　テレビ会議　監視カメラ　ヒューマンインタフェース

遠隔カメラ操作インタフェース
遅延時間の影響を低減する

■研究の概要

遠隔カメラを操作して目的の対象物を見たい
遅延時間を無くすことが困難ならば…遅延時間を感じさせないインタフェースの提案

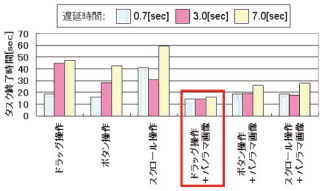


■研究・技術のプロセス／研究事例

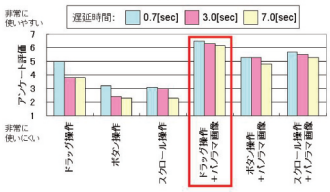
①ドラッグ操作＋パノラマ画像
- ○操作のフィードバックが即座に得られる
- ○操作結果が予測可能である

②従来インタフェースよりも優れた評価結果
- ○少ない操作回数
- ○短いタスク達成時間
- ○高い主観評価

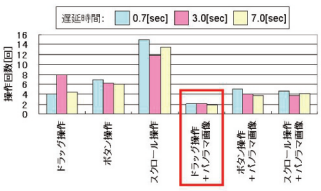
実験結果（タスク終了時間）



主観評価



実験結果（操作回数）



■研究・技術のポテンシャル

さまざまな応用範囲
- ○Webカメラ
- ○テレビ会議システム
- ○監視カメラ
- ○その他各種コミュニケーションシステム

■セールスポイント

遅延時間をなくすのではなく、人が遅延時間を感じにくくすることによって、遅延時間による遠隔カメラ操作の操作性劣化を防ぎます。このアイディアは他の遠隔機器操作にも応用可能です。